

MOBILE SUIT FA-78
 Gundam models Designed and produced by Ka.
FULL ARMOR GUNDAM
[GUNDAM THUNDERBOLT]
"Ver.Ka"

SPECIFICATION / MODEL NUMBER:FA-78 ARMAMENTS / TWIN BEAM RIFLE, ROCKET LAUNCHER, LARGE BEAM GUN,
 MISSILE POD(BACKPACK:6, BREAST:16, SKIRT:24, KNEE:12), BEAM SABERx3, SHIELDx4
 Assignment: EARTH FEDERATION FORCE

MOBILE SUIT FA-78
 Gundam models Designed and produced by Ka.
FULL ARMOR GUNDAM
[GUNDAM THUNDERBOLT]
"Ver.Ka"

FA-78 FULL ARMOR GUNDAM "Ver.Ka"
 [GUNDAM THUNDERBOLT]

Instruction making staff

Produce/direction : KATOKI HAJIME
 Edition : ISHIWAKI TSUYOSHI (GUNDAM A)
 Edition/writing : MITARAI KOJI
 Design : SAITO DAISUKE, UESUGI TOSHIAKI((Mach55Go!))
 Photo : HONDA KEIGO (ENTANIYA)
 Coloring : MATSUMOTO TAKASHI



GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
バンダイホビーサイト® www.bandai-hobby.net/
 Any fees incurred by your access method and connection to the website are
 your own responsibility.
 本ホームページにアクセスする際の通信料等はお客様の自己責任となります。



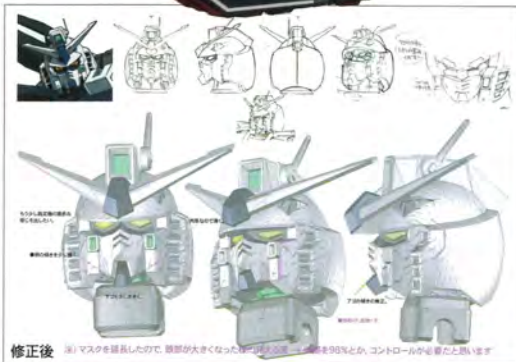
E.F.S.F. PROTOTYPE MOBILE SUIT
 UC.0079 MOORE BROTHERHOOD



FA-78 フルアーマー・ガンダム

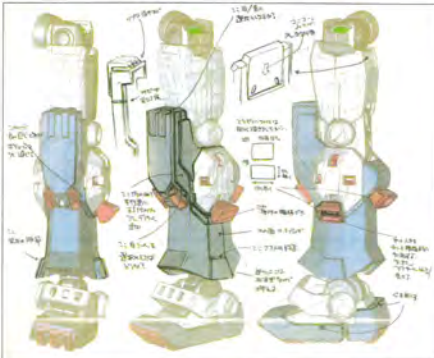
ムーア同胞団に配備されたガンダムタイプのモビルスーツ。増加装甲を施し、ロケットブースターを装着した大型ランドセルを装備。長期戦にも堪えるよう、全身に武器を満載した姿は「動く兵器庫」のようでもある。関節はデブリ対策でシーリング処理がされている

MOBILE SUIT FA-78 FULL ARMOR GUNDAM (GUNDAM SUNDAR BOLT)

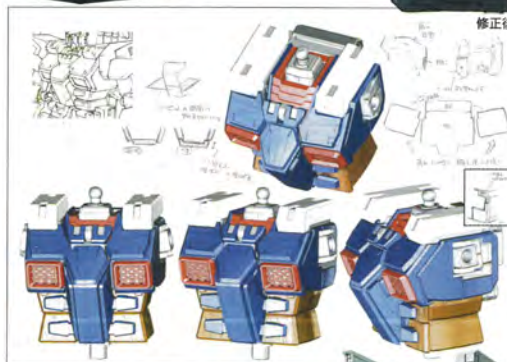


◀リビング・デッド師団では長袴の対象だったガンダムのフェイスは精悍で鋭い目つきになった。設定画に合わせ、面長な感じを出し、頬の横きを強くする指示が書き込まれている

▶増加装甲の中央の修正案を断面図で解説し、肩を「ハ」字にして、胸を張ったポーズができるように肩の背面を一部削る指示がある



↑ヒザは、積層的な表現で増加装甲側面やミサイル・ハッチの形状を変更。スラスターの形状、ディテールも変更されている



修正後

受け継がれる「MSV」の血脈

1/144スケール
FA-78-1
ガンダムフルアーマータイプ (別売り)

FA-78-1 ガンダムフルアーマータイプは、ガンブラームの一翼を担った漫画「プラモ狂四郎」(原作:クラフト団/漫画:やまと虹一)に「2代目パーフェクトガンダム」として登場した。そのデザインは、初代の「パーフェクトガンダム」をMSVに組み入れるために改めて描き起こされたものだった。初期稿を小田雅弘氏、クリンナップを大河原邦男氏が手がけた



HG 1/144スケール
フルアーマー・ガンダム
(ガンダム サンダーボルト版)
(別売り)



漫画に登場するサンダーボルト版のフルアーマー・ガンダムは、ミドリダリ一色の強いオリブドラブではなく、ブルーを基調にしていた。これは太田垣氏による「プラモ狂四郎」の青いフルアーマー・ガンダムへのオマージュだった

サンダーボルト宙域の「フルアーマー・ガンダム」

太田垣康男 & カトキハジメ インタビュー

ガンブラームの渦中で生まれたフルアーマー・ガンダムがおよそ30年の時を経て、『機動戦士ガンダム サンダーボルト』で新しい姿と活躍できる舞台を与えられた。漫画、アニメ、MG Ver.kaへと至る道程は、どんなものだったのだろうか？

漫画『機動戦士ガンダム サンダーボルト』(小学館)は、太田垣康男氏が独自の世界観で一年戦争を描いた作品である。ジオン公国軍によって故郷を追われたムーア同胞団や、戦闘で手足を失ったパイロット達(リビング・デッド師団)を登場させるなど、戦争の暗闇を強く浮き立たせた社会派的側面を描く一方で、21世紀の宇宙開発と地続きな技術、ミリタリー的な要素を描写に盛り込み、ハードコアなストーリーにフィットするようMSのデザインにも太田垣氏の独自解釈が反映されている。

太田垣「まずは宇宙空間で戦闘する際にどんな装備が必要かを考えました。無重力での高速移動と重装備、長時間の機体運用等、『物語が求めるデザイン』を形にしたらこうなった、という感じです」

“サンダーボルト宙域”という特殊な戦場を設定し、そのうえで“MS(モビルスーツ)はロボットではなく宇宙服の延長”という『ファーストガンダム』の最初のコンセプトに立ち返っている。関節のシーリング処理や、大型のランドセル、全身にある姿勢制御スラスターやバーニアは宇宙戦闘を想定してのデザインである。太田垣氏の記憶の中にある「ガンダム」を基盤に、ハードな戦場を描いた『サンダーボルト』は多くのファンから支持を得ることになった。また、『ファーストガンダム』世代でガンブラームを経験していた太田垣氏は、地球連邦側の主人公機にフルアーマー・ガンダムを設定。対するジオン側の主人公機サイコ・ザクは、MS-06R-2高機動型ザクⅡがベースになっている。2機ともMSVで人気のMSで、両機の対決は往年のガンブラファンにとっては心沸き立つ構図でもあった。連載が展開されていく中で、ホビー事業部の開発陣は『サンダーボルト』のMSに注目し、1/144スケールでMS 6機をキット化。さらに流れるは映像化へとつながっていった。制作はサンライズ第1スタジオが手がけ、アニメーションメカニカルデザインにカトキ氏も参加している。

カトキ「『サンダーボルト』の映像化は、小形尚弘プロデューサーと『機動戦士ガンダム UC』のメカ作画スタッフが中心となって企画を立ち上げたと聞いてます。アニメーションメカニカルデザインにクレジットされている仲盛文さんと中谷誠一さんは超ベテランのお

二人で、本来なら私が参加しなくても十分に成り立つ座組でした。ただ同時期にホビー事業部さんからは1/100、しかもMG Ver.Kaでサンダーボルト版フルアーマー・ガンダムの企画が上がっていましたが、アニメとプラモデルが連動して展開するのが望ましい。プラモデルに長年携わってきたノウハウを生かして、調整役として作画マンの目指す方向とバンダイ開発チームの意見を吸い上げて、交通整理をするのが私の役目のひとつでした」

1/144で再現できなかったミサイル・ハッチの開閉、シーリング処理の再現、装甲の着脱など1/100に求められる課題は多い。アニメで描かれたギミックが、1/100で違っていたり再現できていないのは避けたいが、成型や仕様の制約はある。何より漫画原作のデザインから大きく逸脱してしまうと、漫画ファンへの訴求力を失ってしまう恐れもあった。

カトキ「まずは小形プロデューサーと私とで太田垣先生に会いに行って、アニメ版のメカデザインや商品化の事情に関して突っ込んだ話をさせてもらいました。その上でサンダーボルト版のMSについてヒアリングをさせて頂き、実際の作業に反映していきました」

両者でやり取りが交わされるなかで、フルアーマー・ガンダムについては、太田垣氏から重要なポイントが提示されていった。肩はフットボールプレイヤーのように大きく、対して靴部は小さく直線的なラインにするほかに、本体にも太田垣氏のこだわりがあった。

太田垣「大人ガンダム、というキーワードの元で漫画を作ってきたので、アニメ版でも通常のガンダムより小顔の大人体型にして欲しい、装甲をバジリした素のガンダムも細マッチョに、と要望しました」

武器を満載し、重厚なプロポーションのフルアーマー・ガンダムが装甲を外すとスレンダーな本体が現れる。内部には、漫画原作には描かれていないが、量産型のジムやガンキャノンに採用されているコア・ブロック・システムも搭載している。ビーム・サーベルはランドセル側の2本のほかにも、演出上、本体側にも必要だったため背中に1本追加されている。ランドセルの6連装ミサイル・ポッドと大型ビーム砲の基部は、プラモデルでの遊びが広がることを想定して多軸構造になった。

カトキ「アニメの『サンダーボルト』は松尾衡監督をはじめアニメ・スタッフのバッションが満ちた作品です。またフルアーマー・ガンダムは仲盛文さんらしい顔付きだと感じました。全て手で作画されたガンダムのギミックは、キットでもほほ拾えているはずなので、映像を見ながら確かめて頂ければと思います」

太田垣「サブアームの収納ギミックと、今回初造形となるエマーゼンシー・ポッドの変形、収納ギミックがお気に入りです。関節のフレームカバーも1/100ならではのギミックですね」

キットに込められた『サンダーボルト』の世界観をぜひ楽しんで頂きたい。

機動戦士ガンダム サンダーボルト



FA-78 フルアーマー・ガンダム

宇宙世紀0079、一年戦争の末期。かつてサイド4だった『サンダーボルト宙域』では、地球連邦軍のムーア同胞団とジオン公国軍のリビング・デッド師団による激しい攻防が繰り広げられていた。ムーア同胞団のイオ・フレミングと、リビング・デッド師団のダリル・ローレンツは稲妻が閃く戦場で相まみえる。二人は人生を狂わされた戦争を呪いつつも、戦争に魅入られていく。

▶フルアーマー・ガンダムに搭乗する、ムーア同胞団のエースパイロット。肝が据わり、戦闘中でも流すほどのジャズファン
イオ・フレミング





◀6連装ミサイル・ポッドと大型ビーム砲に接続するアームは基部が多軸構造で、さまざまな角度に可動する。ミサイル・ハッチは開閉可能

◀屈強なフォルムをもつフルアーマー・ガンダム。増加装甲は本体のガンダムにフィットし、“着ぶくれ感”を感じさせない。シールドはスライド機構を搭載

↓胸部ダクトは黒いパーツを外すと、劇中で描かれていたメッシュパターンを再現できる



▶大型ランドセルには、ロケットブースターが2基装着されている。ビーム・サーベルは側面に1本ずつ装備する



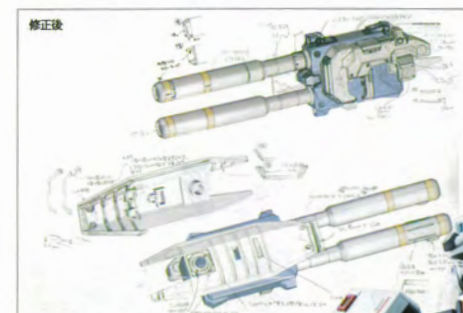
※部パーツを外しています。



▶胸部、前後・両腰のスカート、ヒザのミサイル・ハッチが開閉し、全弾発射シーンを再現できる。専用台座の支柱は長短の2WAY選択式

◀本体ランドセルの下部にあるビーム・サーベルは基部がスライド可動し、右手を後ろに回して柄をつかむアクションを再現可能

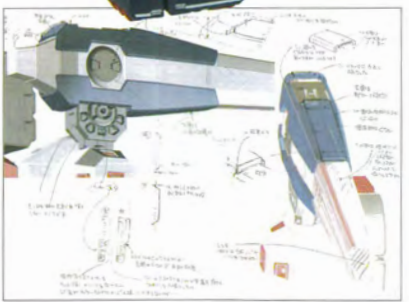
↑本体内部にコア・ブロック・システムを再現。垂直に収納されたエマーゼンシー・ポッドは、コックピット・シートが90度回転して、正面を向く



◀2連装ビーム・ライフルのグリップ周りや、前腕をホールドするパーツなどはモールドを深めに掘る指示がされている。本体を覆うカバーの断面に溝が掘られ、装甲の重なりを演出している



▶大型ビーム砲は細かな段差を設けることで、装甲の重なりを表現し、適度な密度も確保している。基部はメリハリの効いたディテールにより、メカニカルな印象を与えている



◀関節のシーリング処理は「サンダーボルト」に登場するMSの特徴のひとつ。MGではビニール素材にシワを作り、関節に被せて再現する



↑胸部増加装甲側面を開き、中央部を展開。さらに本体コックピット・ハッチ、エマーゼンシー・ポッドのキャノピーも開閉可能。MGならではの3重構造となっている

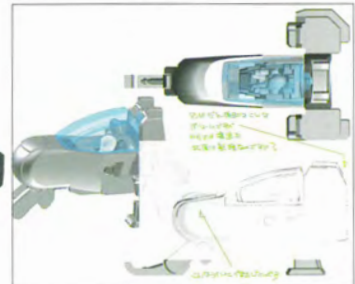
↑増加装甲を外した本体はファーストガンダムのRX-78よりもスレンダークな印象に。劇中と同じくビーム・サーベルとシールドを装備できる



↑大型ランドセルに収納されたサブアームは、収納状態から上にスライドしてロック後、各関節が独立して可動する。アーム基部が回転し、マニピュレーターでシールドなどを保持できる

↑↑コア・ブロックからエマーゼンシー・ポッドに変形。キャノピーが開き、イオ・フレミングのフィギュアを搭乗させることができる

◀増加装甲を被せるため、本体側の肩や脚はスリムなシルエットになっており、特徴的なふくらみは多角形のフォルムになっている

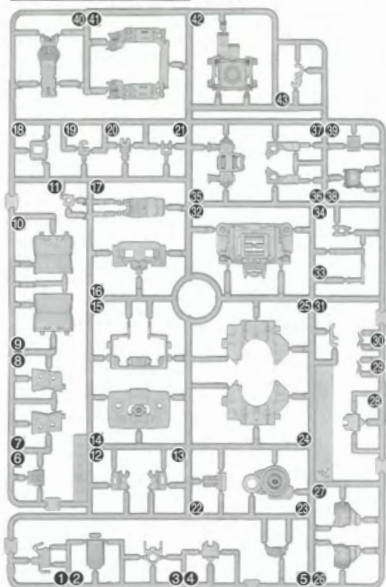


↑エマーゼンシー・ポッドの機首は緩やかなラインを描くように修正指示が入られ、キャノピーの後部は漫画の形状に合わせるよう提案されている

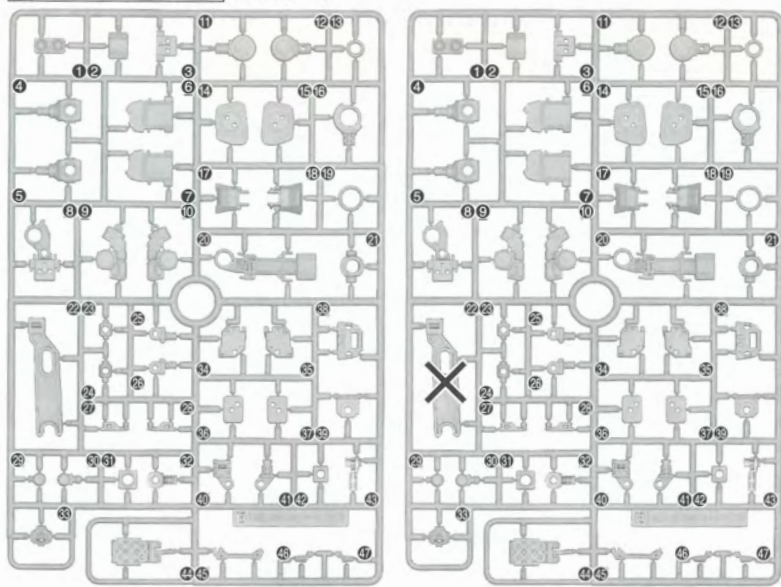
パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

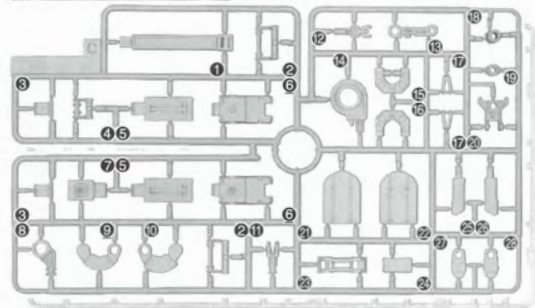
Aパーツ(イロブラ) (PS)



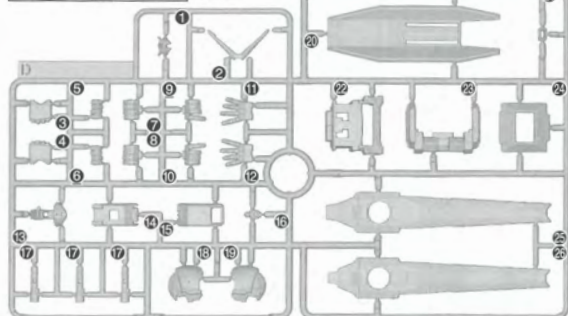
Bパーツ(ダークグレー) (PS) (x 2)



Cパーツ(ダークグレー) (PS) (x 2)

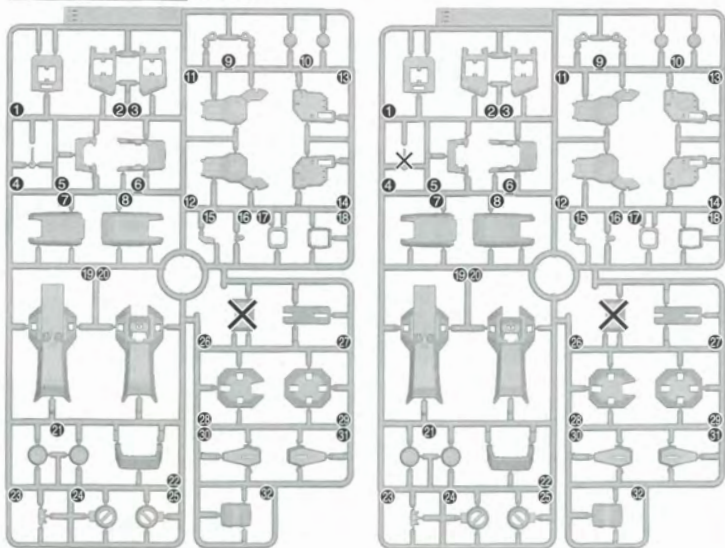


Dパーツ(ホワイト) (PS)

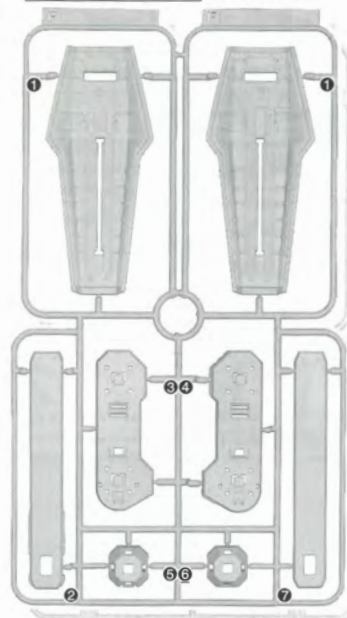


※D9は武器を持たせるパーツなのでとっておいてください。

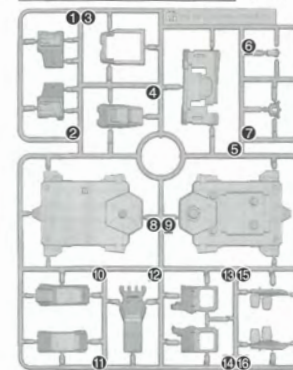
Eパーツ(ホワイト) (PS) (x 2)



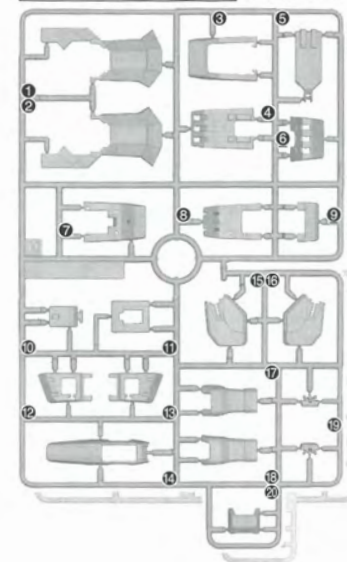
Fパーツ(ホワイト) (PS) (x 2)



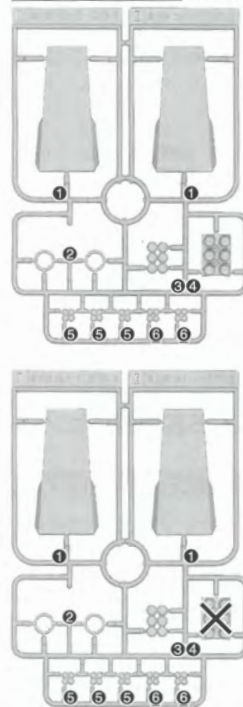
Gパーツ(ダークブルー) (PS)



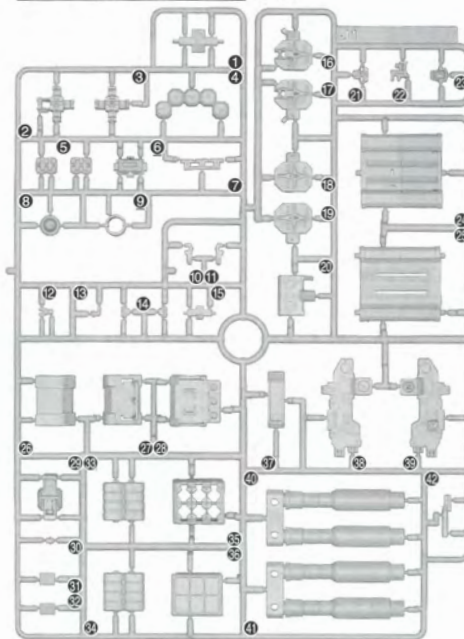
Hパーツ(ダークブルー) (PS) (x 2)



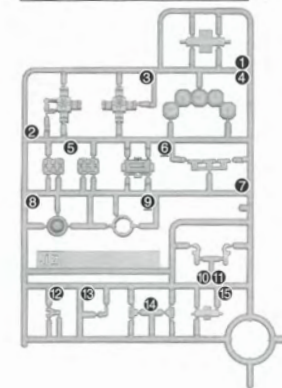
Iパーツ(オレンジ) (PS) (x 2)



J1パーツ(ダークグレー) (PS)



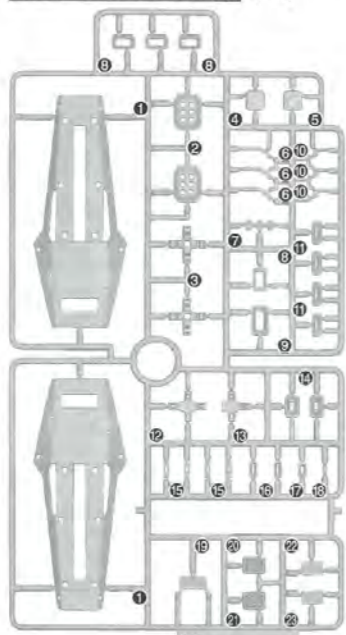
J2パーツ(ダークグレー) (PS)



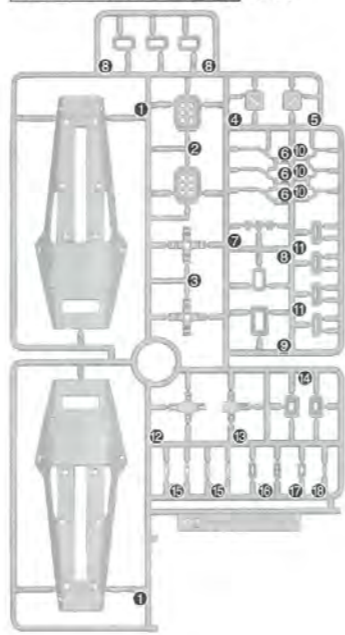
PARTS LIST BASE EMERGENCY POD BODY HEAD ARMS UPPER BODY WAIST LEGS BOTTOM ARMOR BACKPACK WEAPONS

PARTS LIST BASE EMERGENCY POD BODY HEAD ARMS UPPER BODY WAIST LEGS BOTTOM ARMOR BACKPACK WEAPONS

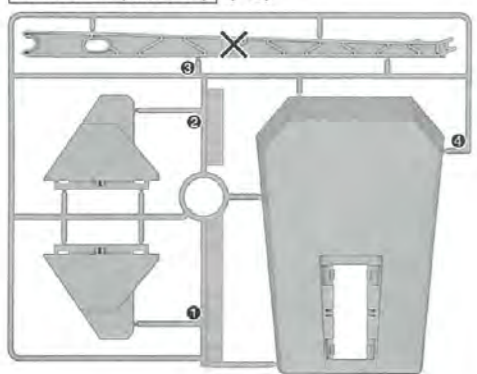
K1パーツ(ワインレッド) (PS)



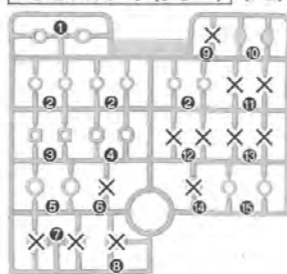
K2パーツ(ワインレッド) (PS)



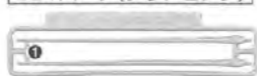
BA2パーツ(ブラック) (PS)



PC-211パーツ(グレー) (PE)



SB1パーツ(クリアピンク) (PS)



- カラーシール……………1枚
- 水転写式デカール……………1枚
- フレームカバー(細)………2枚 (PE)
- フレームカバー(太)………6枚 (PE)

※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

注意

お買い上げのお客様へ必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。
- 接着剤を使用する場合は、閉めきった室内では使用しないでください。中毒の危険があります。

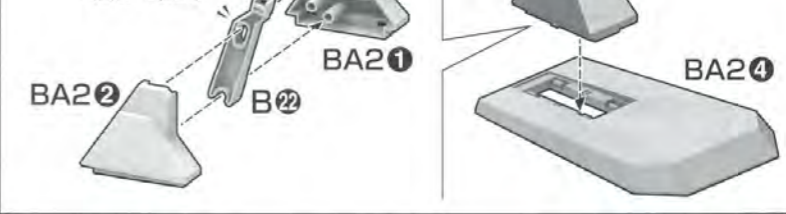
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ※この商品には道具類は入っていませんので、別にご用意ください。

鋭利なところ	シールの番号	切り取り注意	反対側に取り付けるパーツ	両側に同じパーツを取り付ける	向きに注意して取り付ける	尖った部分に注意
切り取る	部品を数値の個数作ります	先に組み立てます	後に組み立てます	数値に合わせて回転させます	どちらかを選んで取り付ける	反対側も同じように動かします



1-1 BASE
(台座の組立)



1-2

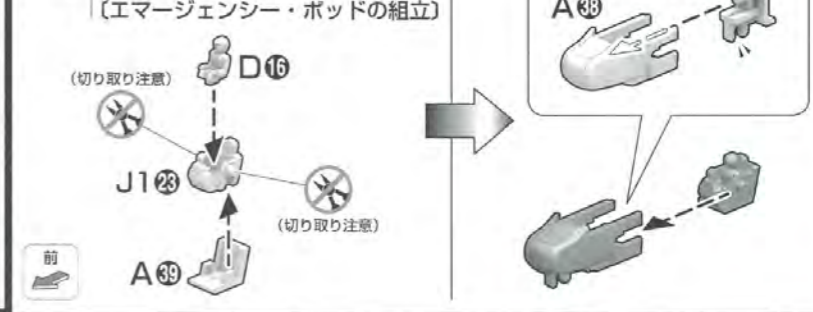
[脚を浮かせてディスプレイする場合]



[脚を接地してディスプレイする場合]



2-1 EMERGENCY POD
(エマージェンシー・ポッドの組立)



2-2 (向きに注意)

2-3

2-4

2-5

2-6 **2-7 TRANSFORMATION** (キャンビーの開けた) (エマージェンシー・ポッドの変形)

2-6

2-7 TRANSFORMATION (エマージェンシー・ポッドの変形)

3 BODY

3-1 BODY (ボディの組立)

3-2

3-3

3-4

3-2

3-3

3-5

3-6

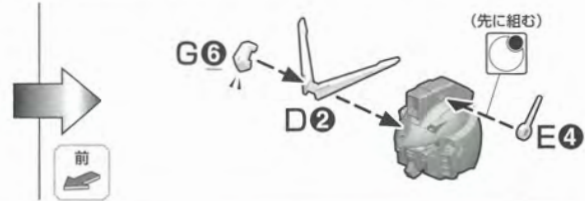
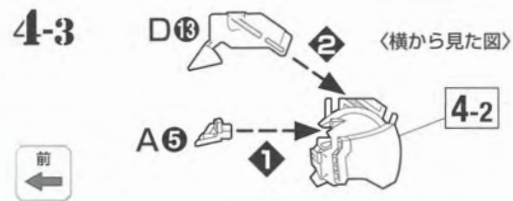
3-7

4 HEAD

4-1 HEAD (頭の組立)

4-2

シール (Stickers)



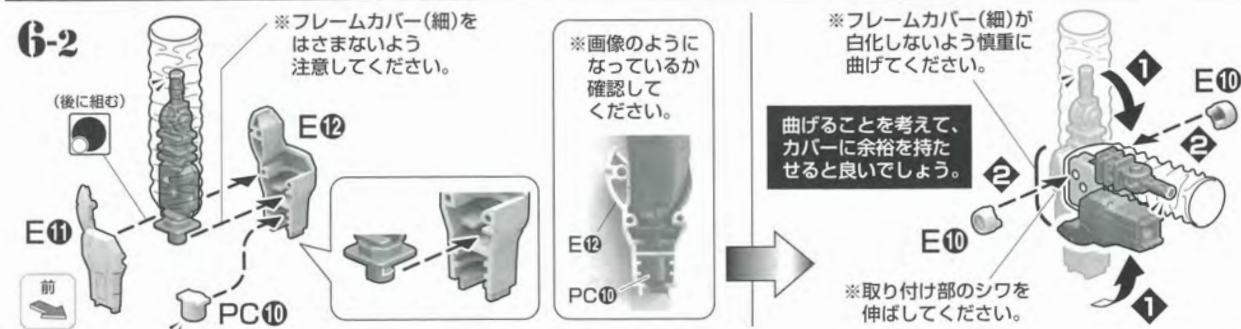
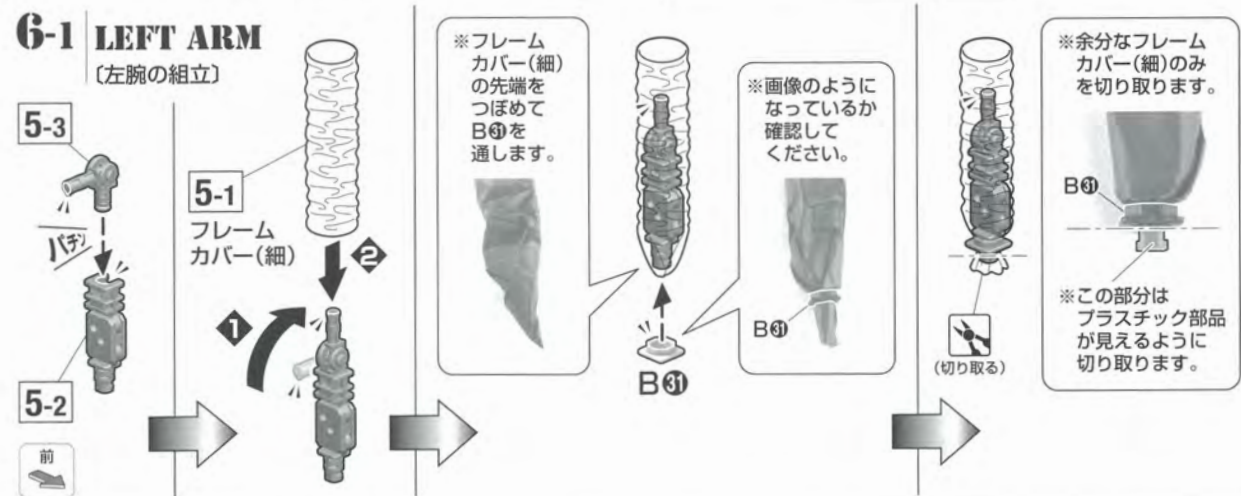
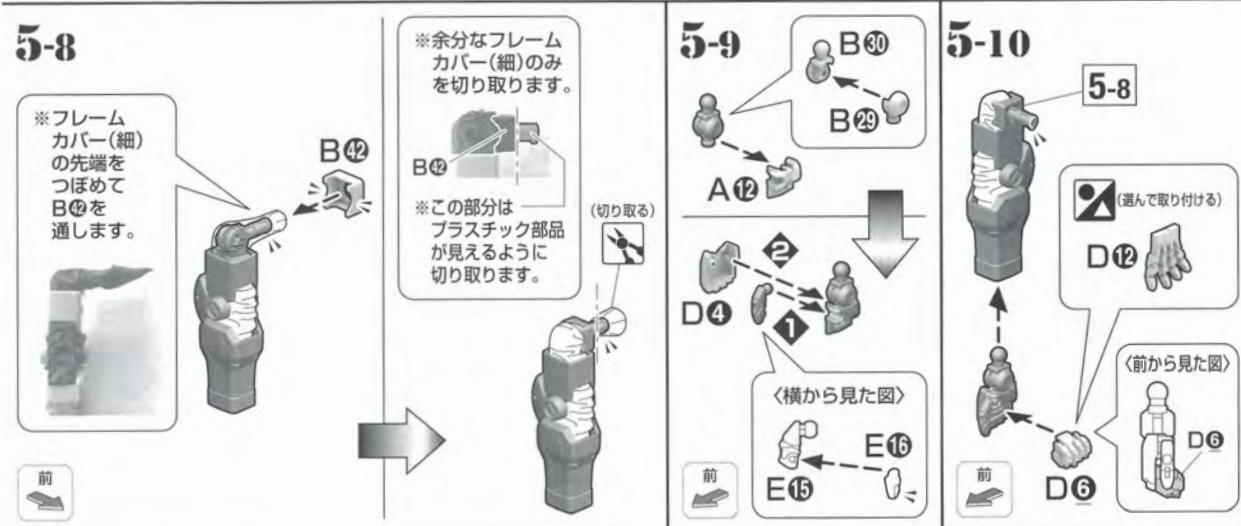
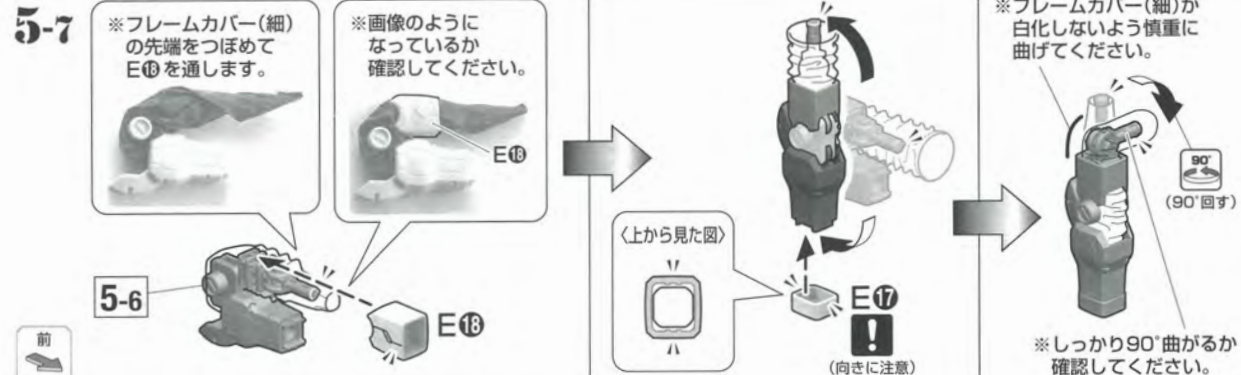
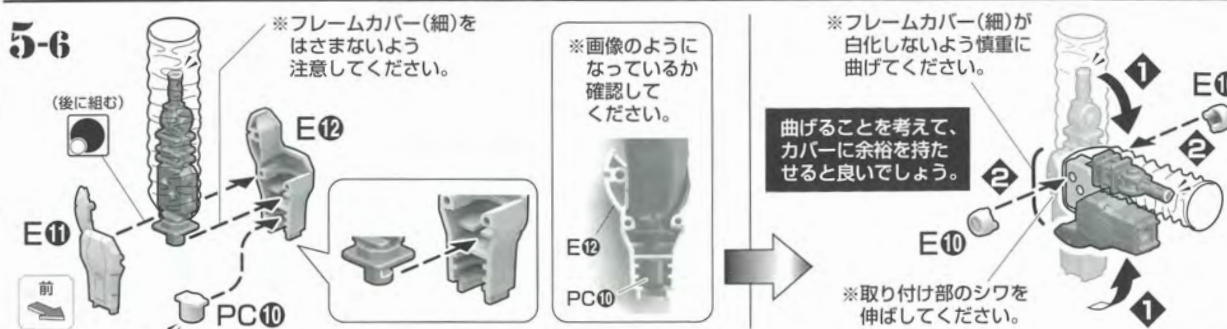
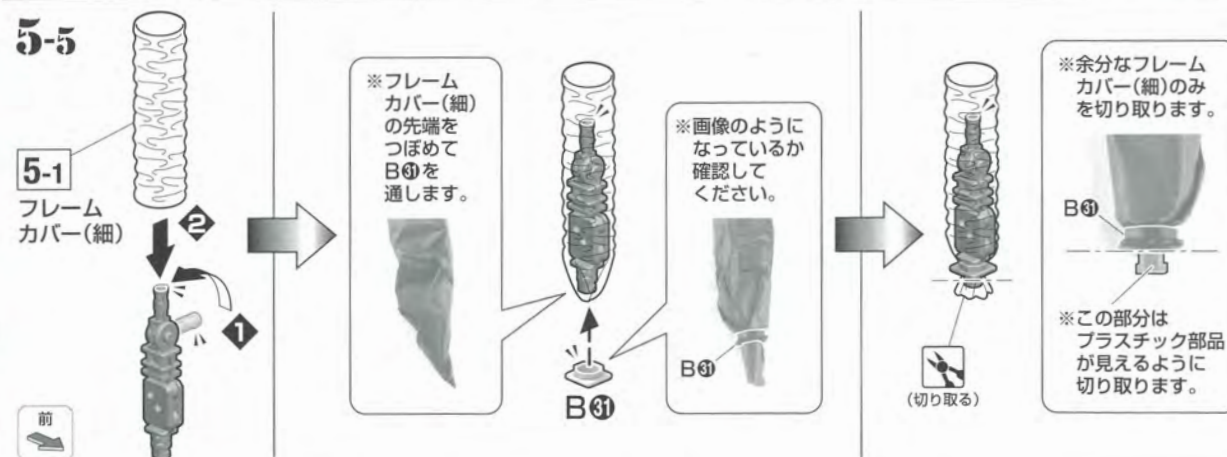
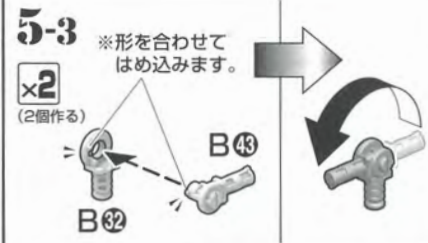
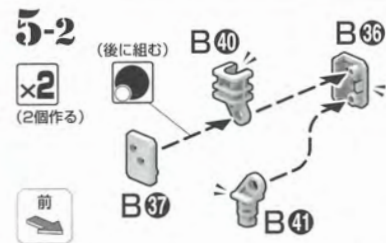
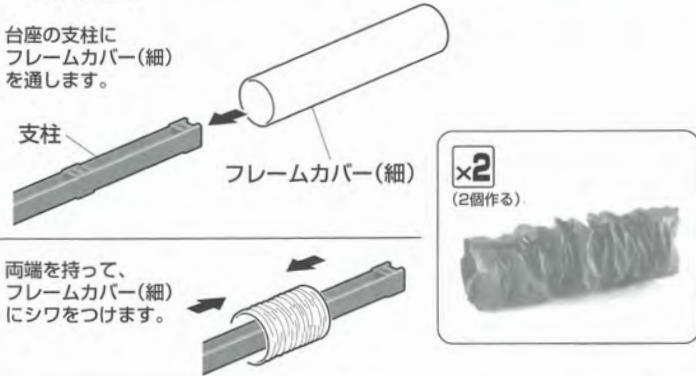
5 RIGHT ARM 6 LEFT ARM



5-1 ARMS
〔腕の組立〕

台座の支柱を利用してフレームカバー（ビニール素材）にシワを作り、関節にかぶせていきます。

① 台座の支柱にフレームカバー（細）を通します。



6-3

※フレームカバー(細)の先端をつぼめてE10を通します。

※画像のようになっているか確認してください。

6-2

前

E10

※フレームカバー(細)が白化しないよう慎重に曲げてください。

90° (90°回す)

※しっかり90°曲がるか確認してください。

〈上から見た図〉

E17

! (向きに注意)

6-4

※フレームカバー(細)の先端をつぼめてB42を通します。

※余分なフレームカバー(細)のみを切り取ります。

B42

前

〈切り取る〉

6-5

B30

B29

A13

D3

1

2

〈横から見た図〉

E16

E15

前

6-6

6-4

〈通んで取り付ける〉

D11

〈前から見た図〉

D6

前

7 UPPER BODY

MOBILE SUIT FA-78 FULL ARMOR GUNDEM [GUNDAM THUNDERBOLT] Ver.Ka

7-1 UPPER BODY (上半身の組立)

×2 (2個作る)

B34

B39

B35

K115

K215

J115 (J215)

K215

K115

※奥までしっかりと、はめ込みます。

E14

E18

7-2

※形を合わせてはめ込みます。

5

4

3

6

※奥までしっかりと、はめ込みます。

※形を合わせてはめ込みます。

※形を合わせてはめ込みます。

※奥までしっかりと、はめ込みます。

※奥までしっかりと、はめ込みます。

※奥までしっかりと、はめ込みます。

〈前から見た図〉

8 WAIST

FULL ARMOR GUNDEM [GUNDAM THUNDERBOLT] Ver.Ka

8-1 WAIST (腰の組立)

A23

PC2

PC2

A24

後に組む

A25

前

8-2

B38

A6

1

A30

2

3

D15

90° (90°回す)

A14

2

1

D14

前

8-3

E9

×2 (2個作る)

E2

H19

※奥までしっかりと、はめ込みます。

180° (180°回す)

8-4

×2 (2個作る)

E9

H19

※奥までしっかりと、はめ込みます。

180° (180°回す)

8-5

8-2

8-3

8-4

8-3

8-4

前

9 RIGHT LEG 10 LEFT LEG

MOBILE SUIT FA-78 FULL ARMOR GUNDEM [GUNDAM THUNDERBOLT] Ver.Ka

9-1 LEGS (脚の組立)

台座の支柱を利用してフレームカバー(ビニール素材)にシワを作り、関節にかぶせていきます。

1 台座の支柱にフレームカバー(太)を通します。

支柱

フレームカバー(太)

×6 (6個作る)

2 両端を持って、フレームカバー(太)にシワをつけます。

9-2

×2 (2個作る)

前

9-3

×2 (2個作る)

前

9-4

×2 (2個作る)

前

9-5

×2 (2個作る)

前

9-6 RIGHT LEG (右脚の組立)

前

9-7

前

9-8

前

9-9

前

9-10

前

9-11

前

9-12

※フレームカバー(太)をはさまないように注意してください。

前

※きれいに切り取ります。

※きれいに切り取ります。

9-13

前

※きれいに切り取ります。

※奥までしっかりと、はめ込みます。

10-1 LEFT LEG (左脚の組立)

前

※フレームカバー(太)をはさまないように注意してください。

※フレームカバー(太)をはさみ込みます。

※フレームカバー(太)をはさみ込みます。

※フレームカバー(太)が白化しないよう慎重に曲げてください。

※フレームカバー(太)が白化しないよう慎重に曲げてください。

※フレームカバー(太)の先端をつぼめます。

※フレームカバー(太)のみを切り取ります。

10-2

9-1 フレームカバー(太)

前

※フレームカバー(太)をツメにひっかけます。

※フレームカバー(太)をツメにひっかけます。

※フレームカバー(太)をはさみ込みます。

※取り付け部のシワを伸ばしてください。

※両側を押さえて組み立てます。

10-3

前

※フレームカバー(太)が白化しないよう慎重に曲げてください。

※フレームカバー(太)の先端をつぼめてB19を通します。

※画像のようにになっているか確認してください。

※余分なフレームカバー(太)を切り取ります。

10-4

前

※フレームカバー(太)をツメにひっかけます。

※フレームカバー(太)をはさみ込みます。

※フレームカバー(太)をはさまないように注意してください。

10-5

前

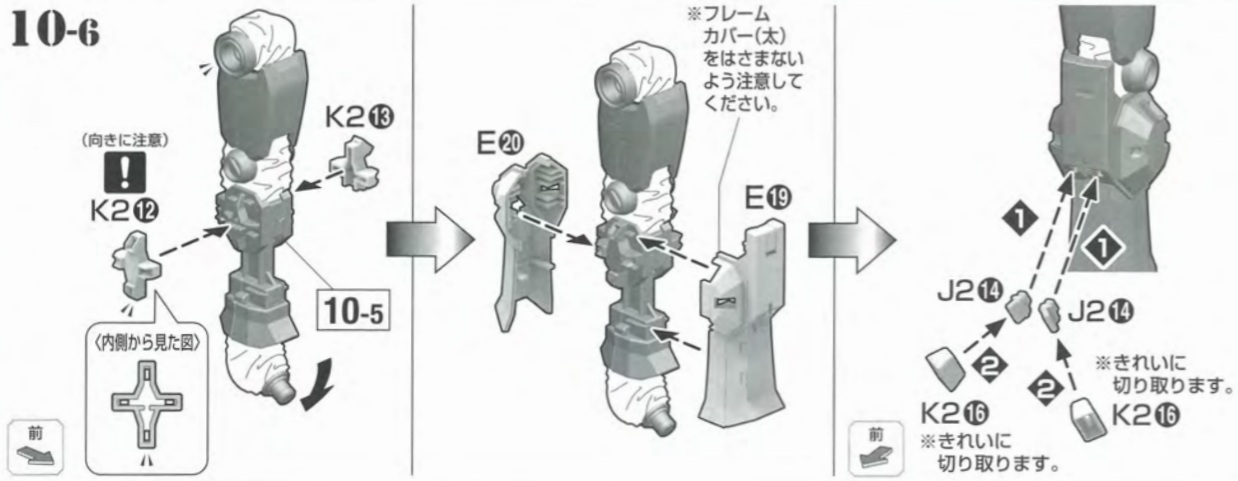
※フレームカバー(太)の先端をつぼめます。

※フレームカバー(太)が白化しないよう慎重に曲げてください。

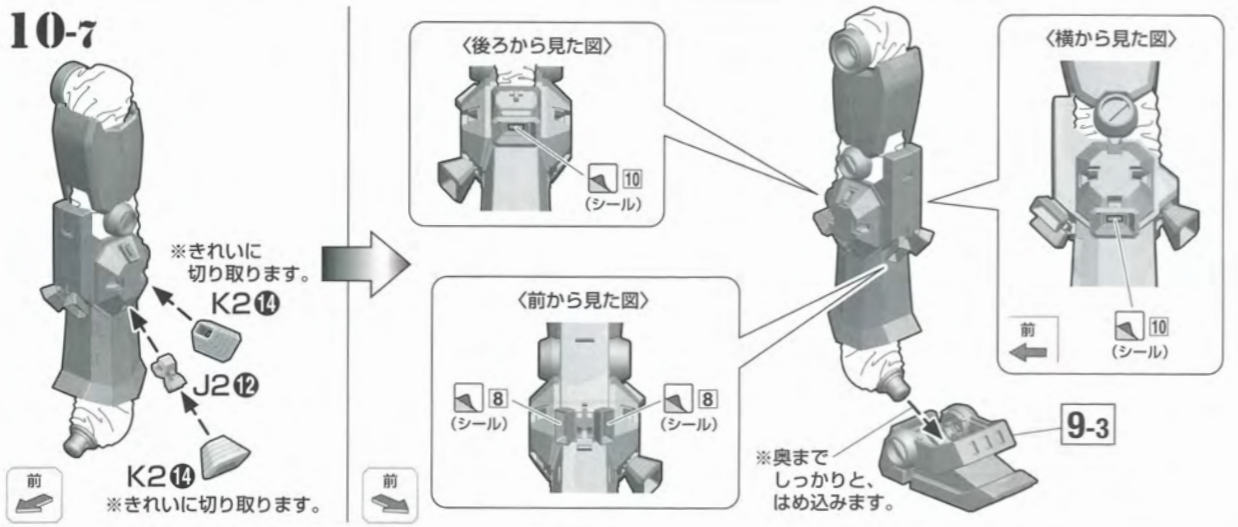
※画像のようにになっているか確認してください。

※この部分はプラスチック部品が見えるように切り取ります。

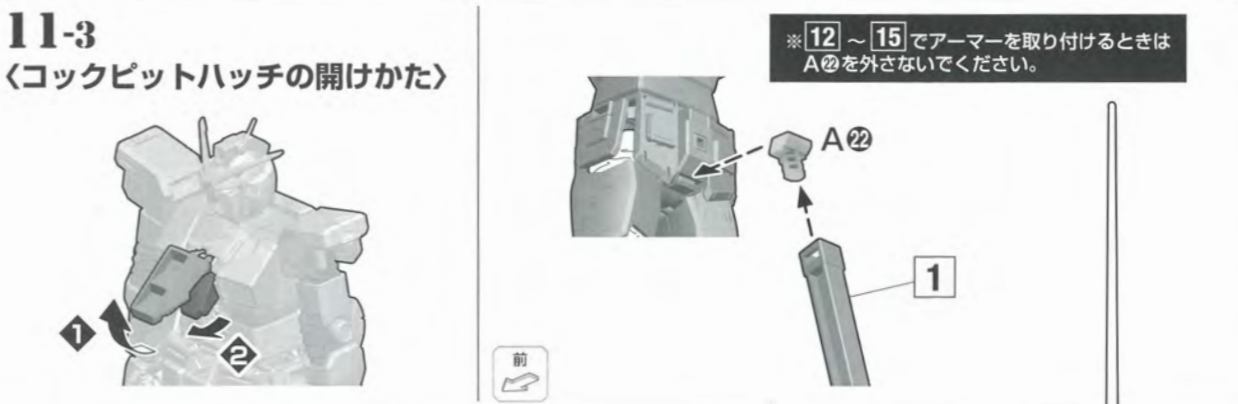
10-6



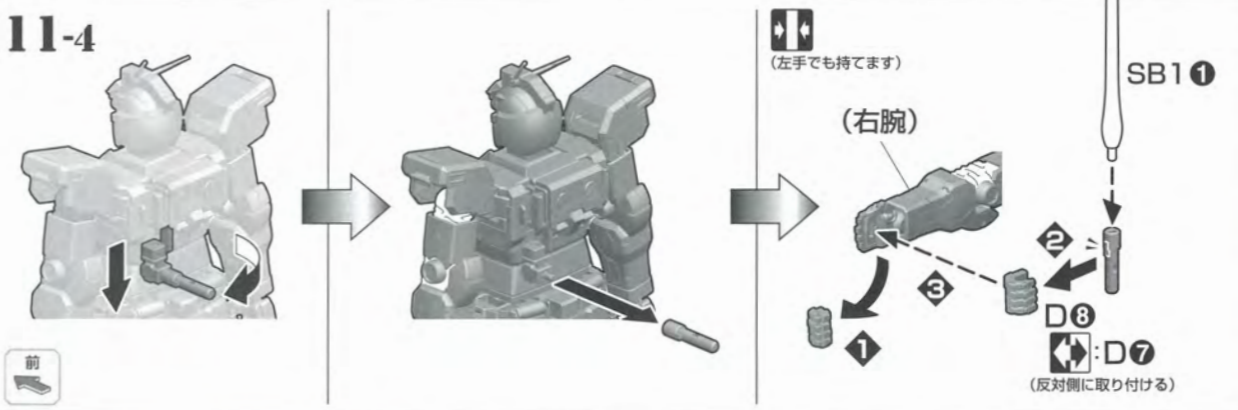
10-7



11-3



11-4

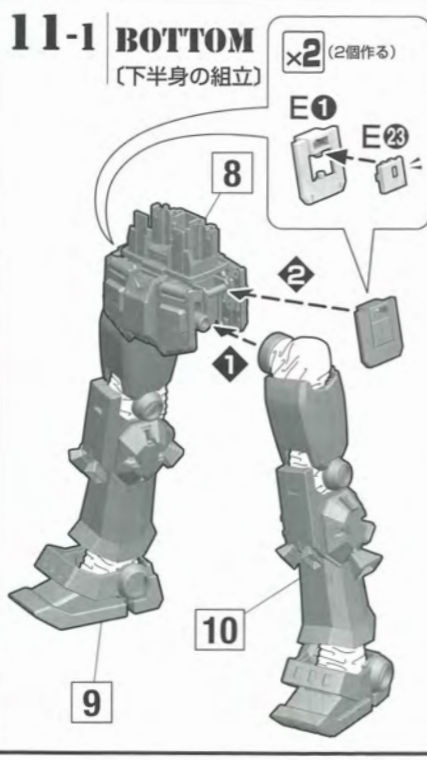


11 BOTTOM

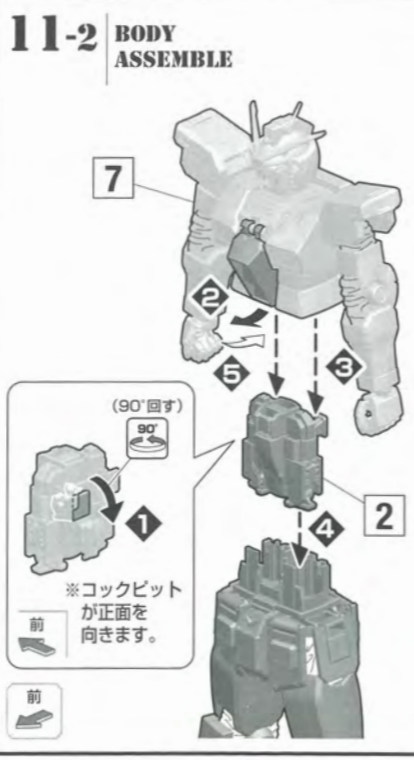


11-1 BOTTOM

(下半身の組立)



11-2 BODY ASSEMBLE

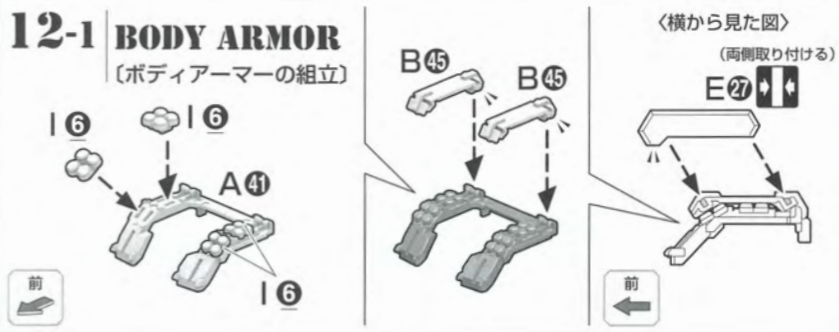


12 ~ 15 ARMOR



12-1 BODY ARMOR

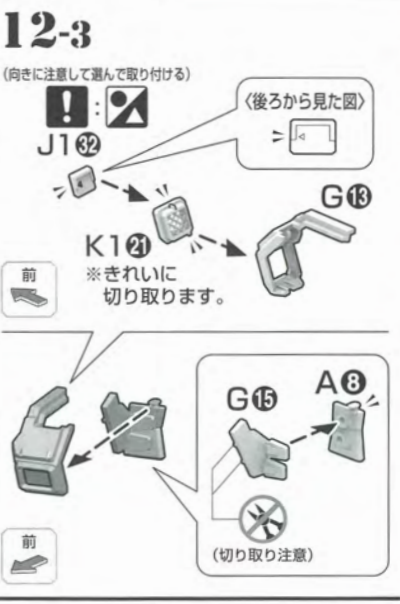
(ボディアーマーの組立)



12-2



12-3



12-4

※きれいに切り取ります。
G12

A40 A43

前

12-5

12-1

12-2

12-3

※アンテナに注意して取り付けてください。

前

12-6

12-4

前

13-1 ARM ARMOR

〔腕アーマーの組立〕

x2 (2個作る)

E30 J1 (J2)

K1 K2

※各パーツは、全てきれいに切り取ります。

前

13-2 RIGHT ARM ARMOR

〔右腕アーマーの組立〕

H15 H16 H17 H18

前

13-3 LEFT ARM ARMOR

〔左腕アーマーの組立〕

H15 H16 H17 H18

前

13-4

13-1 E32

前

14-1 LEG ARMOR

〔脚アーマーの組立〕

x2 (2個作る)

B44 H5

前

14-2

x2 (2個作る)

H4 K16 K26

※ここを押して取り付けてください。

前

14-3

x2 (2個作る)

H6 K10 K20

※ここを押して取り付けてください。

前

14-4 RIGHT LEG ARMOR

〔右脚アーマーの組立〕

14-1 H0 H2 H20 E29

前

14-5

14-2 14-3

前

14-6 LEFT LEG ARMOR

〔左脚アーマーの組立〕

14-1

前

14-7

H0 H2 H20 E29

前

14-8

K27 14-3

前

15-1 WAIST ARMOR

〔腰アーマーの組立〕

x2 (2個作る)

H13 B47 K15 K25

※ここを押して取り付けてください。

前

15-2

x2 (2個作る)

H12 B46 K14 K24

※ここを押して取り付けてください。

前

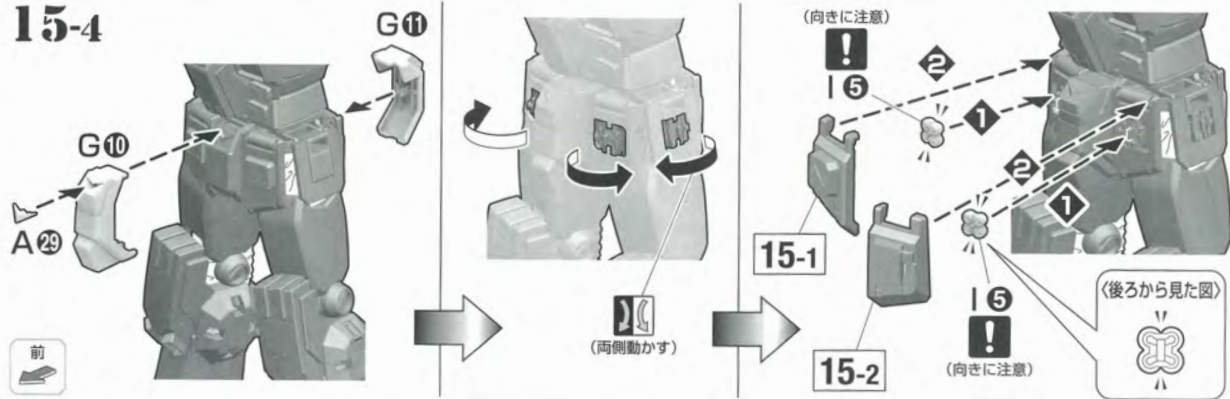
15-3

x2 (2個作る)

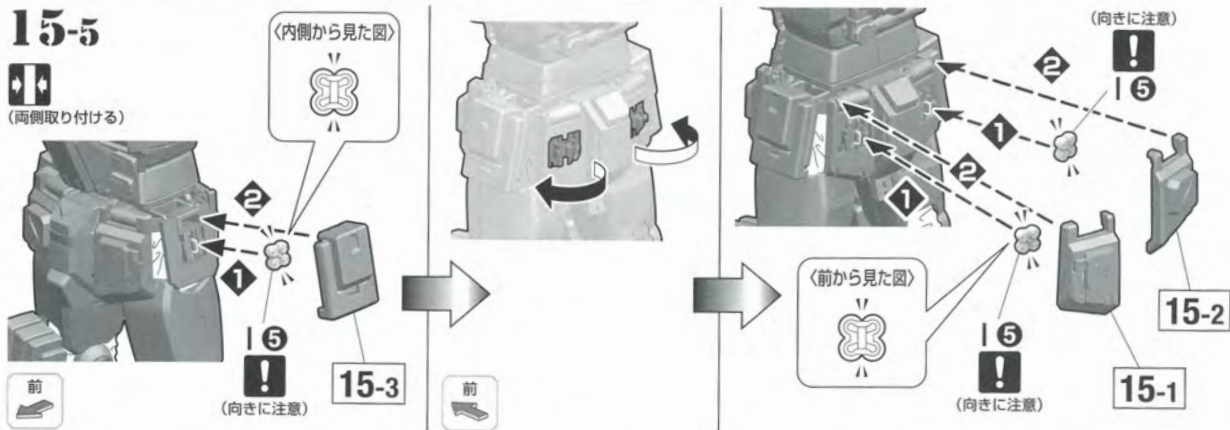
H10 H11

前

15-4



15-5

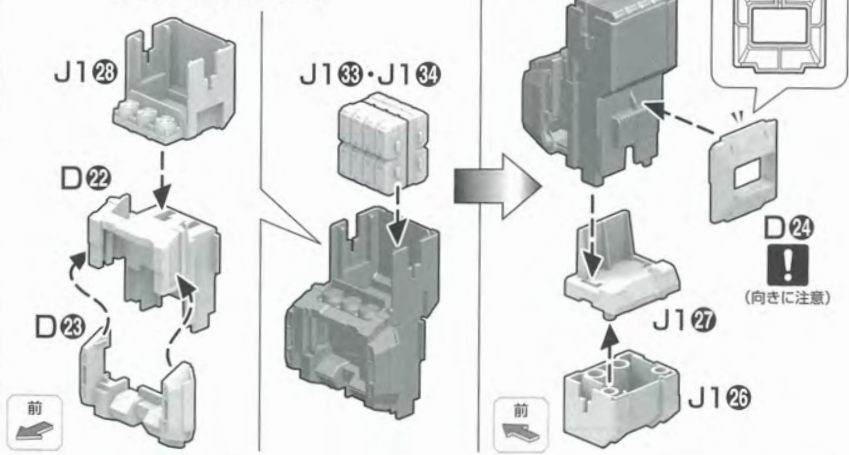


16 BACKPACK

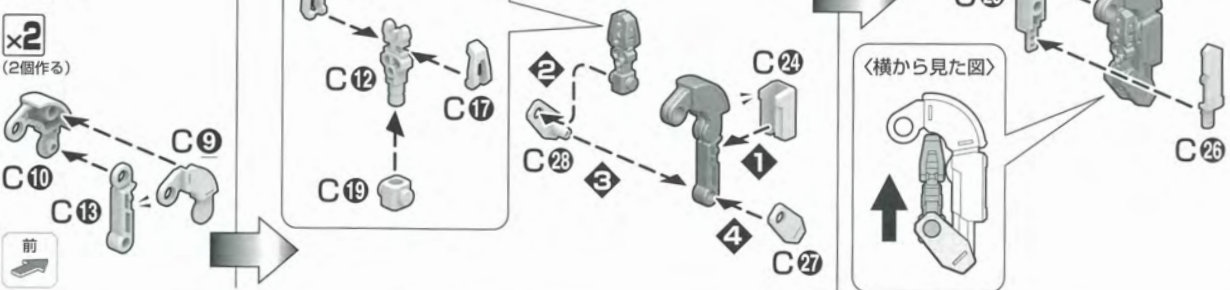


16-1 BACKPACK

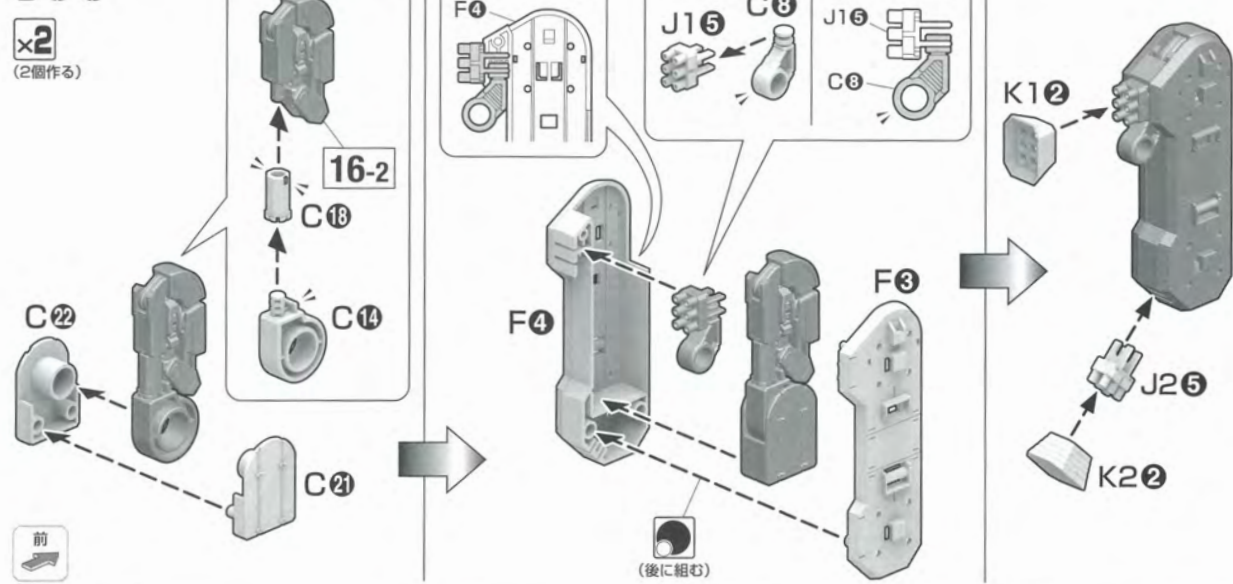
(バックパックの組立)



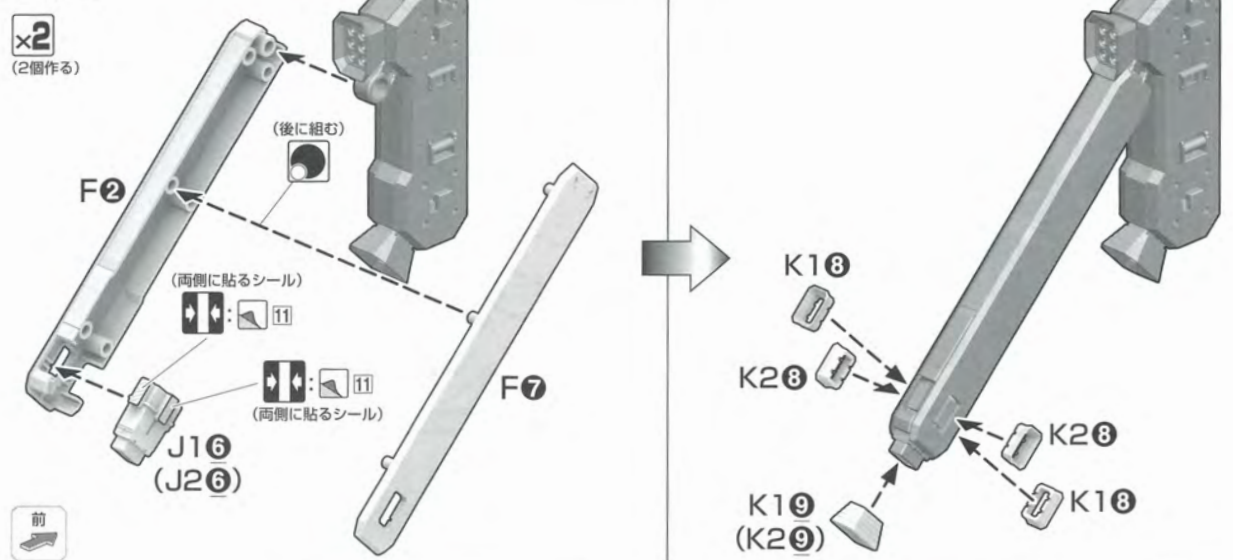
16-2



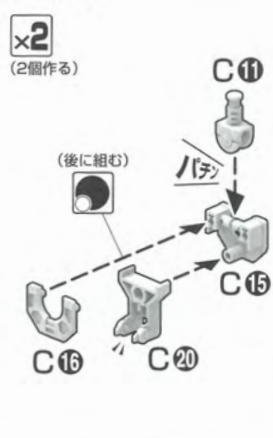
16-3



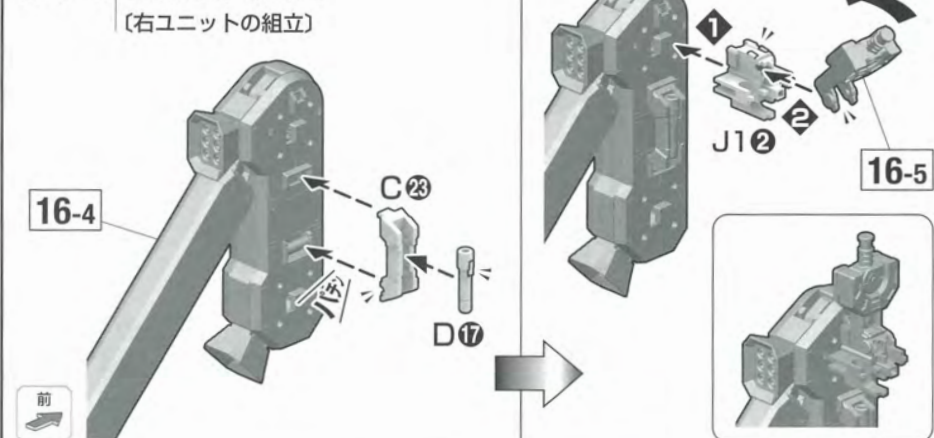
16-4



16-5



16-6 RIGHT UNIT



16-7

※奥までしっかりと、はめ込みます。

16-8 LEFT UNIT

(左ユニットの組立)

※奥までしっかりと、はめ込みます。

16-9

※奥までしっかりと、はめ込みます。

※奥までしっかりと、はめ込みます。

16-10

16-11

(向きに注意)

※奥までしっかりと、はめ込みます。

16-12

※奥までしっかりと、はめ込みます。

16-13

17 SHIELD

18 TWIN BEAM RIFLE

19 ROCKET LAUNCHER

MOBILE SUIT FA-78
FULL ARMOR GUNDAM
[GUNDAM THUNDERBOLT]
"Ver.Ka"

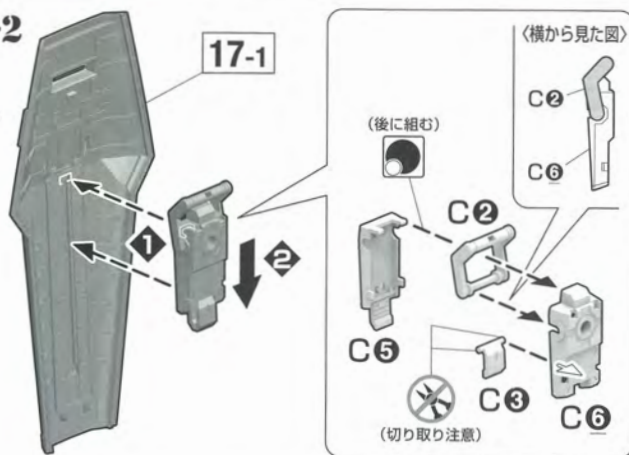
17-1 SHIELD

(シールドの組立)

※きれいに切り取ります。

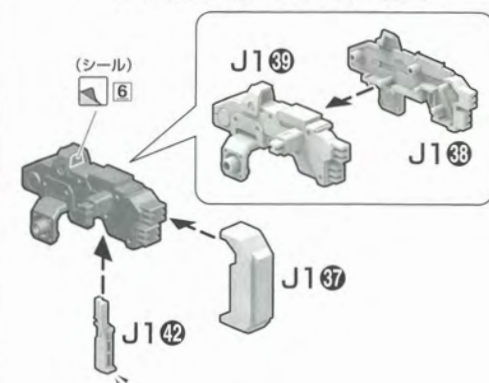
17-2

×4
(4個作る)

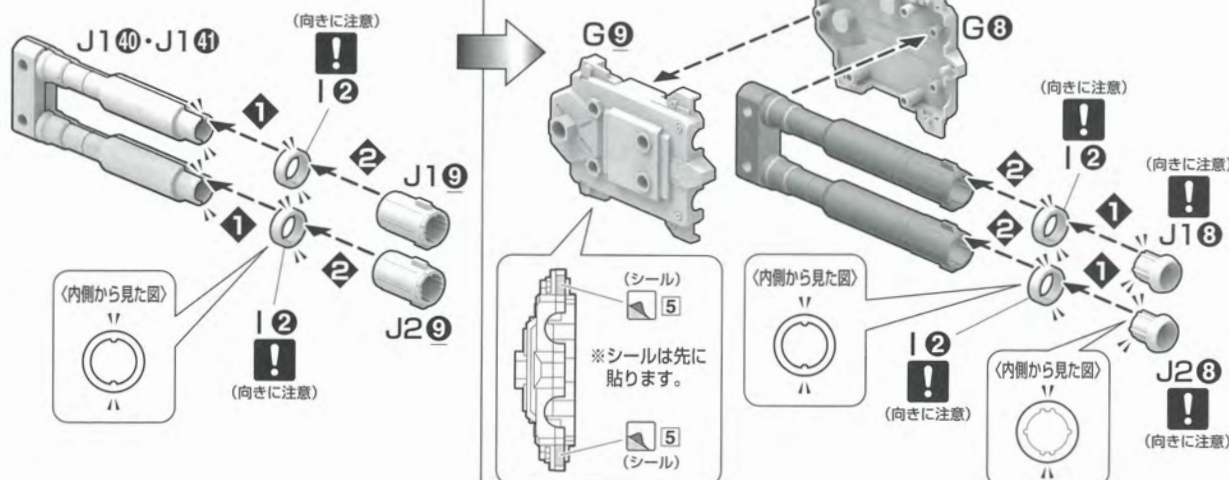


18-1 TWIN BEAM RIFLE

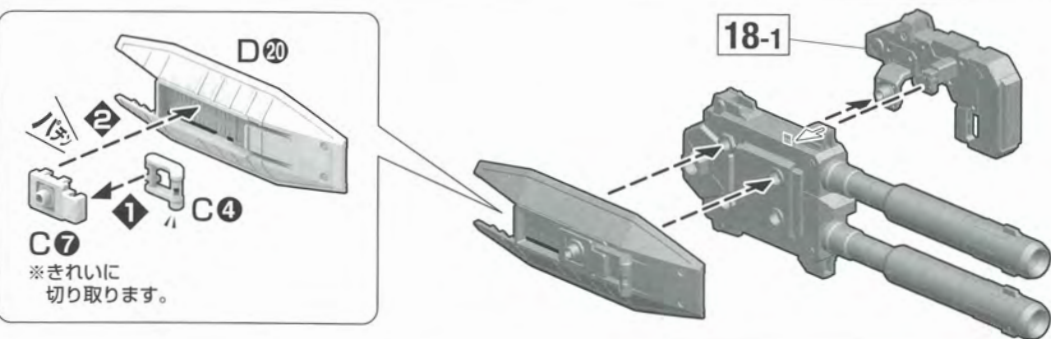
(2連装ビーム・ライフルの組立)



18-2

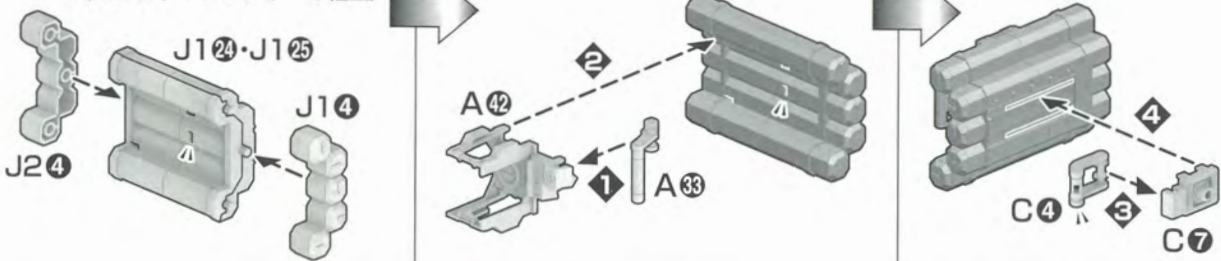


18-3



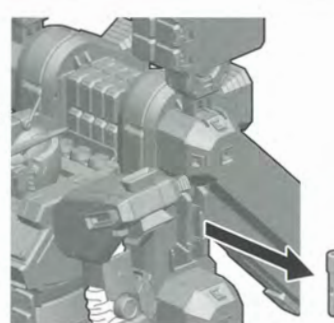
19 ROCKET LAUNCHER

(ロケット・ランチャーの組立)

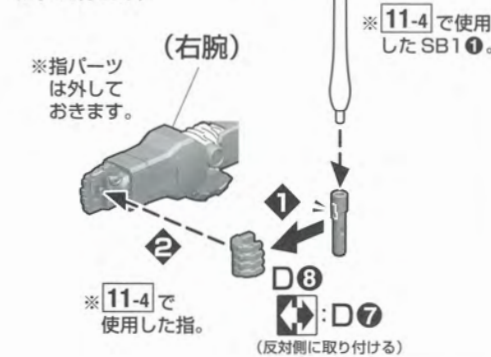


20-1

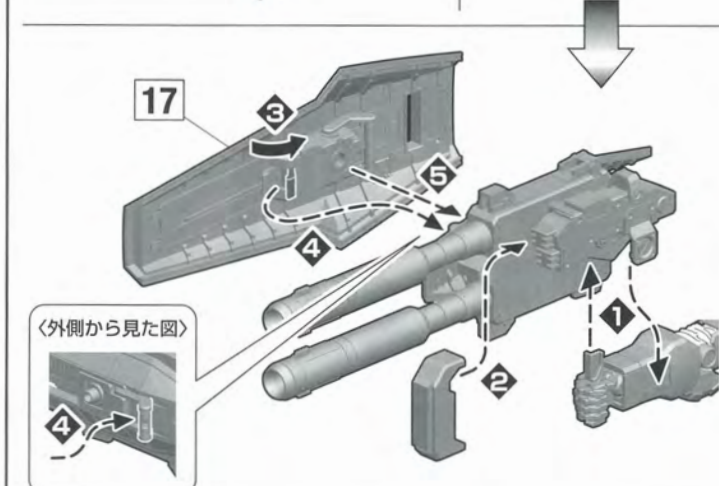
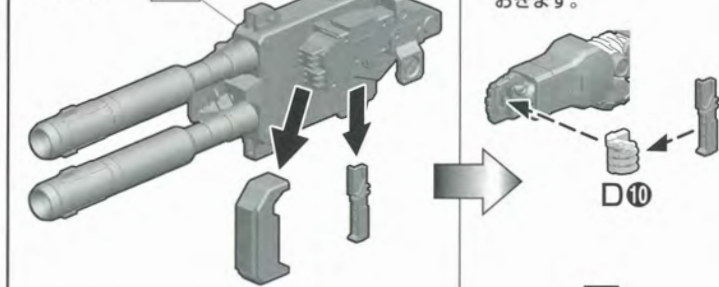
(両側取り外せます)



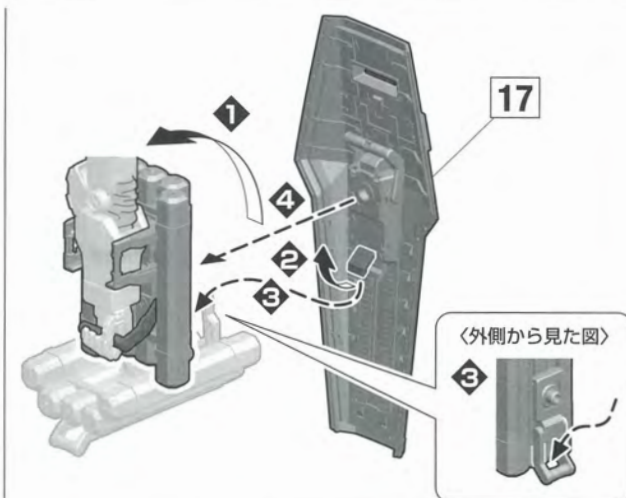
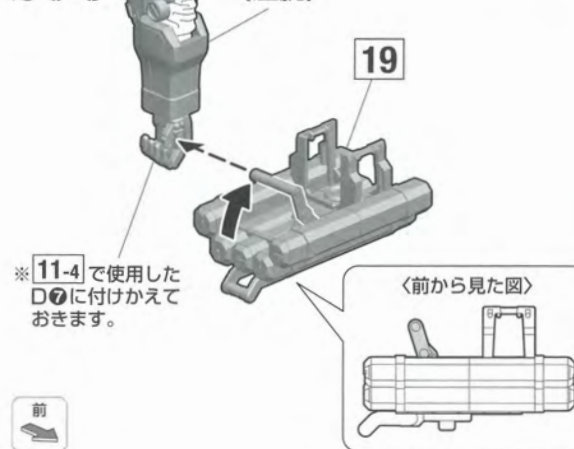
(左手でも持てます)



20-2

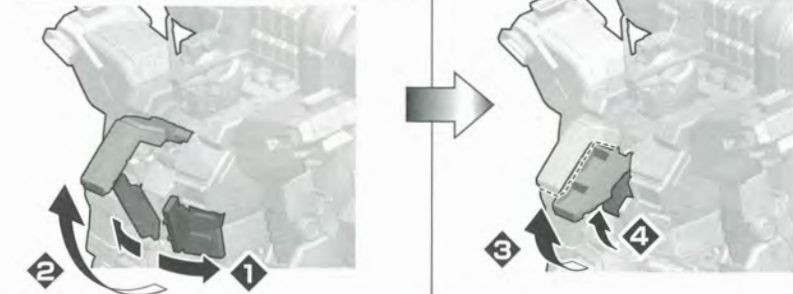


20-3



21-1

〈コックピットハッチの開けかた〉



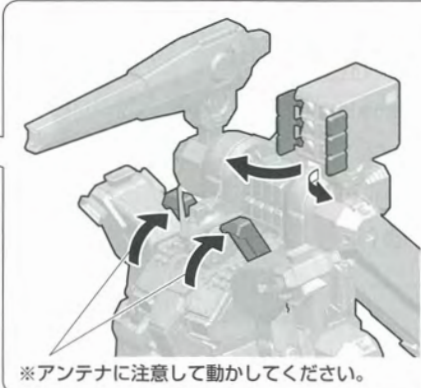
21-2

(両脚動かさず)



22-1

〈ミサイル・ハッチの開きかた〉



※アンテナに注意して動かしてください。

※バックパックをよけながら開いてください。



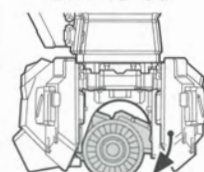
前

前

※画像の完成品は塗装してあります。

※画像の完成品は塗装してあります。
※画像の完成品は組立説明と一部異なる箇所もあります。

〈横から見た図〉



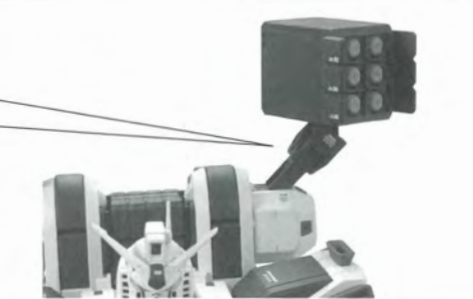
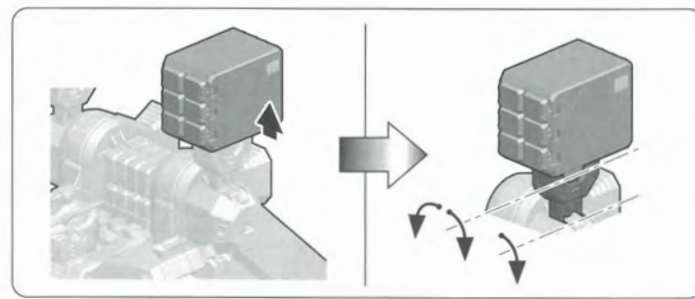
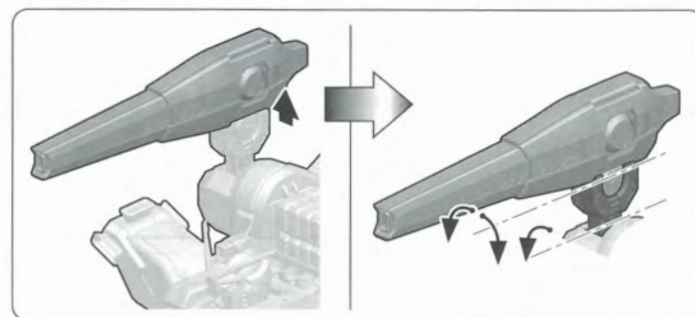
※脚の可動範囲が広がります。
※説明のため、一部イラストを省略しています。



1

22-2

※それぞれ武器を引き出すと、可動範囲が広がります。

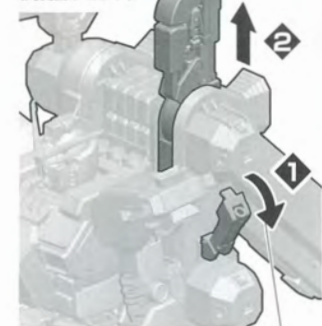


※画像の完成品は塗装してあります。

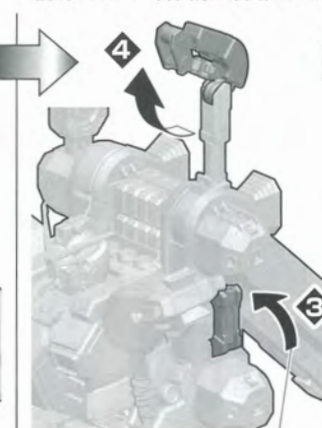
22-3 〈サブアームの展開〉

※説明のため、一部画像を省略しています。

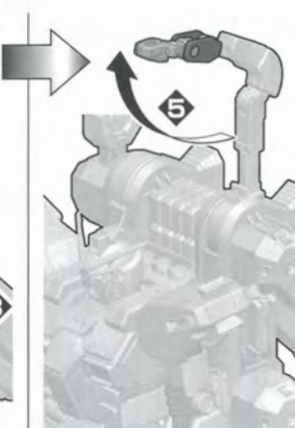
(両側動かせます)



※アーム基部のロックが外れます。



※アーム基部をロックします。

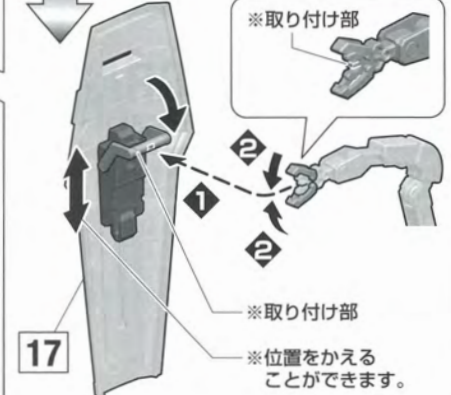
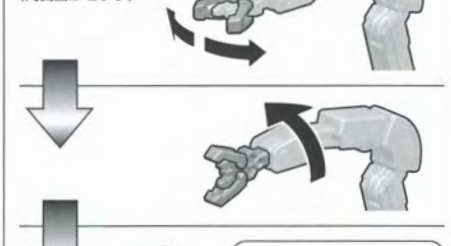


※45°ごとに動かすことができます。

22-4



(両側動かせます)



17

※取り付け部

※取り付け部

※位置をかえることができます。

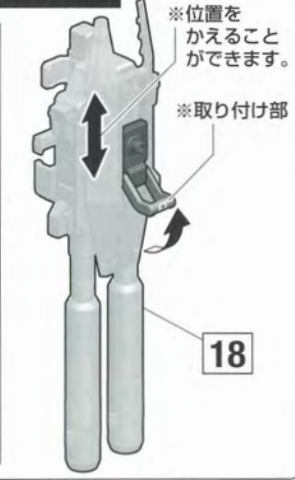
※武器類をアームに持たせることができます。



19

※取り付け部

※位置をかえることができます。



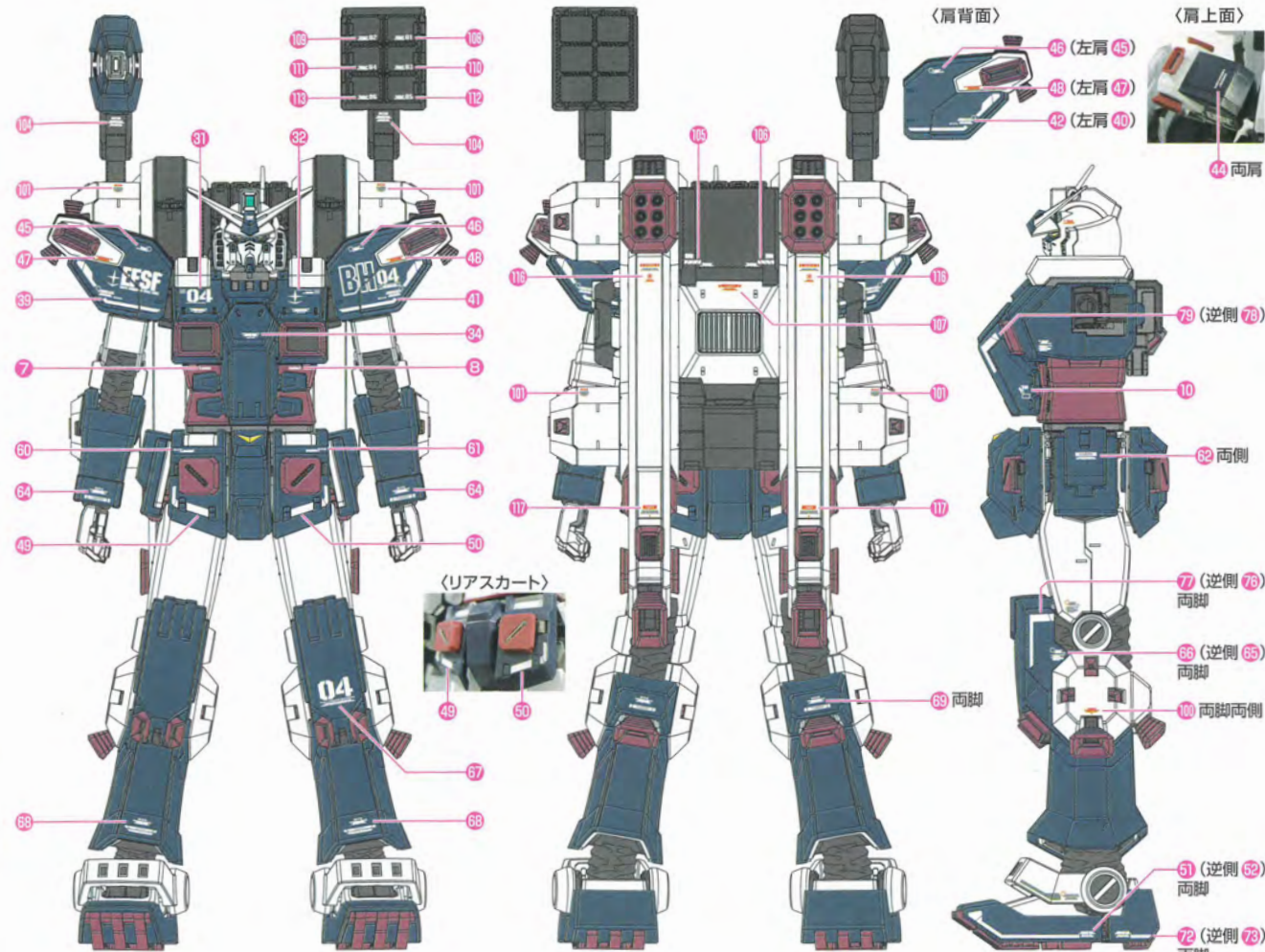
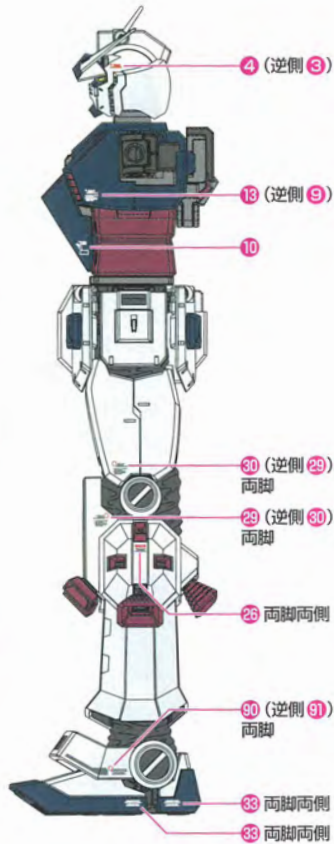
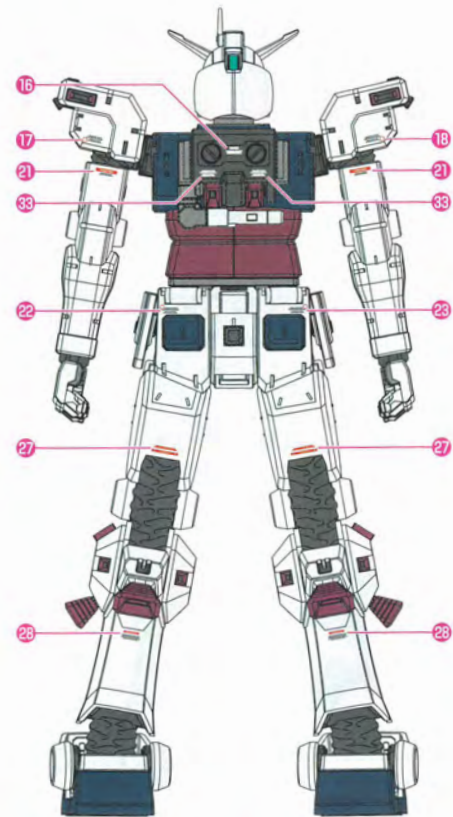
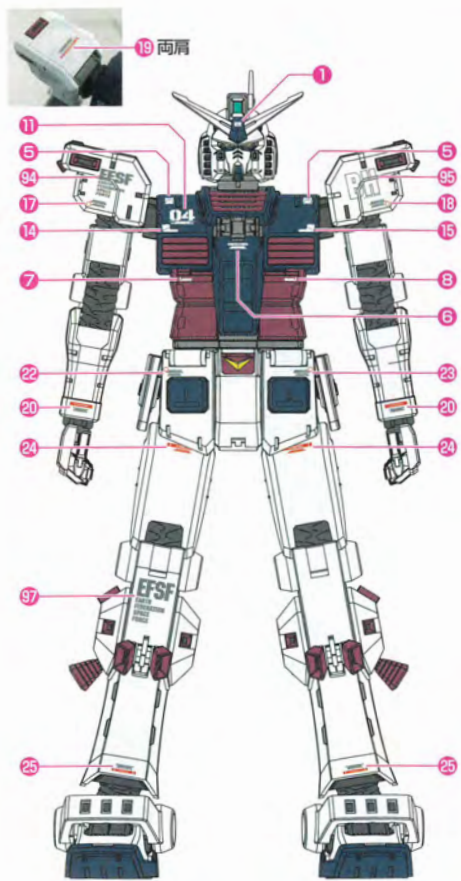
18

※位置をかえることができます。

※取り付け部

※画像の完成品は塗装してあります。

※画像の完成品は組立説明と一部異なる箇所もあります。



COMPLETE DIAGRAM for painting and applying decal

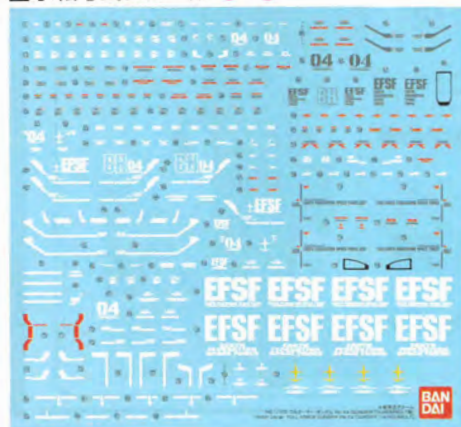
この水転写式デカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

■水転写式デカールの貼り方

1. 水転写式デカールは転写するマークより大きめに切り出し、ぬるま湯に3秒程度浸し、ピンセットで引き上げます。デカールのいらぬ部分は切り取っておきましょう。
2. 台紙からデカールがすべるようになるまで待ち、表を上にしてすべらせて貼ってください。
3. 綿棒などで押して、気泡を取ってください。乾くまでは、手を触れないでください。

- ※水転写式デカールを貼る部分のキットパーツの油分を、あらかじめ中性洗剤などでふきとると一層よく密着します。
- ※余った水転写式デカールは好きなところに貼ってください。
- ※水転写式デカールを貼るための道具(ハサミ、ピンセット、綿棒など)は、別にご用意ください。
- ※複雑な凹凸形状等に貼るデカールには、密着させるために別売りの水転写式デカール用軟化剤、水転写式デカール用接着剤をご使用ください。
- ※可動部などはデカールがこすれてはがれる場合がございますのでご注意ください。

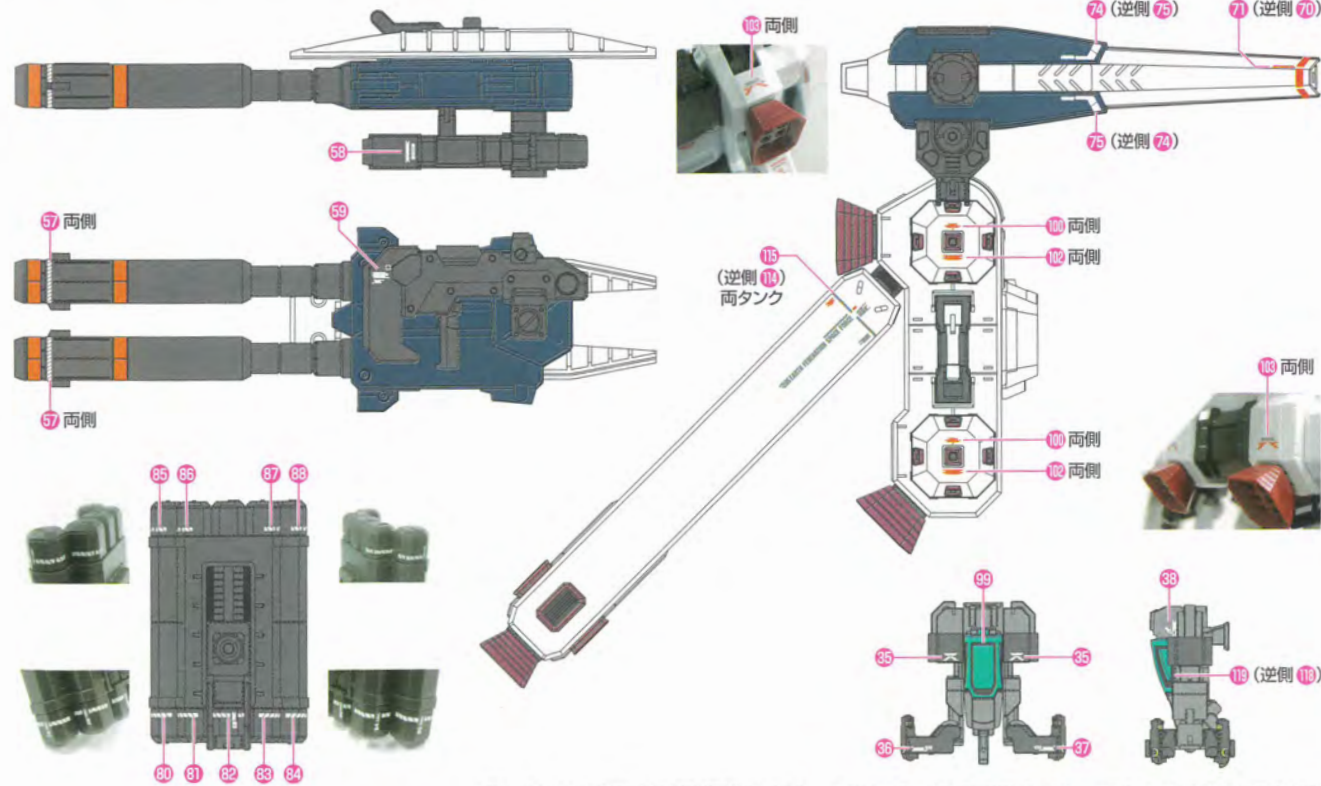
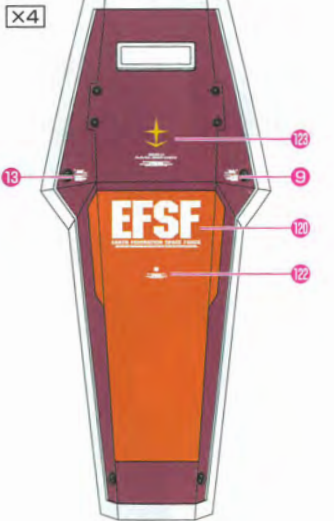
■水転写式デカール ①~⑫



COLOR CHART used paints and mixture ratio

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
※カラー配合は参考値であり、画像とカラーガイドの色は異なる場合があります。

- | フルアーマー・ガンダム | |
|-------------|---|
| | 【本体ホワイト部の塗装色】
ホワイト(100%) + ミディアムブルー(少量) + パープル(極少量) |
| | 【本体イエロー部の塗装色】
ホワイト(65%) + イエロー(25%) + オレンジイエロー(10%) |
| | 【本体レッド部の塗装色】
ワインレッド(95%) + ブルー(5%) |
| | 【本体ブルー部の塗装色】
ネービーブルー(45%) + ブルー(40%) + レッド(15%) + ホワイト(少量) |
| | 【シールド等オレンジ部の塗装色】
オレンジ(50%) + オレンジイエロー(40%) + ホワイト(10%) + グレー(少量) |
| | 【エマージェンシーボッド等ライトグレー部の塗装色】
グレー(80%) + ブラック(10%) + マホガニー(10%) |
| | 【武器等グレー部の塗装色】
ミッドナイトブルー(60%) + マホガニー(30%) + グレー(10%) |
| | 【カメラアイ等ゴールド部の塗装色】
ゴールド(70%) + クリアイエロー(20%) + クリアレッド(10%) |
| イオ・フレミング | |
| | 【本体ホワイト部の塗装色】
ホワイト(100%) + グレー(少量) |
| | 【本体ブラック部の塗装色】
ブラック(100%) |
| | 【本体レッド部の塗装色】
モンザレッド(50%) + シェンレッド(50%) |
| | 【本体グレー部の塗装色】
ミディアムブルー(100%) + ホワイト(少量) |



※ここに掲載している情報は2016年7月現在のものです。 ※説明のため、一部画像を省略しています。 ※画像と実際の商品は多少異なります。